

編集後記

本号では、Society5.0 超スマート社会に向けた各学会の取り組みにおける特集論文を3件掲載した。岩田氏は、バーチャルリアリティ(VR)研究の経緯を追う中で、科研費の重点領域として「人工現実感」が採択されたことが大きな転換点になったこと、また、日本VR学会のユニークな取組として、国際学生対抗VRコンテストを立ち上げ「失禁体験マシン」が意外にも大人気となったことを紹介いただいた。椿氏は、TQM活動を学術から支援することを目的に、日本品質管理学会が創設され、PDCAサイクルやQCサークル、田口メソッド、方針管理、品質機能展開、品質論など、日本から生まれ国際化した成果を示し、現在進行中の「QのSHINKA」活動を説明いただいた。高橋氏は、行動経済学が人間の意思決定における合理性について研究するものであり、最近のニューロエコノミクス研究では、サイバー技術が新たな「スマホ中毒」などのリスクをもたらしていることを紹介いただいた。

2件の解説論文では、未来洞察活動について鷺

田・七丈・粟田氏から、防災対策手法について三浦氏からそれぞれ解説いただいた。鷺田氏は、ホライゾン・スキミング法を中心に各国の未来洞察活動の状況を網羅的に紹介している。三浦氏は、最新の防災技術を各地域に届ける活動として取り組まれている地域防災Webについて、効果的な対策を行う実践事例を紹介している。原著論文、西村・内田両氏による、「悲観と楽観の交織」では、人口減少という「悲観」と地方創生という「楽観」を、コミュニティ・マトリックスという新たな手法を用いて分析し、解決の方向性を導こうとする取り組みを提案している。

この編集後記は、第9回横幹コンファレンスの会場で執筆している。今年も、横幹らしい幅広いテーマに対して一貫した手法で取り組んだ研究成果が多数発表されている。会誌編集委員会では、このような研究成果を横幹論文としてできるだけ早く出版するために、現在、早期公開制度の新たな導入に取り組んでいる。多くの方からの「横幹」への原著論文の投稿をお待ちしている。

会誌編集副委員長 倉橋節也

【特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）】

□ 2018年度役員

会長	北川 源四郎 (東京大学)		
副会長	船橋 誠壽 (国際環境研究協会)	本多 敏 (慶應義塾大学)	
理事	浅間 一 (東京大学)	板倉 宏昭 (産業技術大学院大学)	
	大倉 典子 (芝浦工業大学)	大塚 敏之 (京都大学)	
	岡田 勇 (創価大学)	木村 忠正 (電気通信大学)	
	倉橋 節也 (筑波大学)	小平 和一郎 (アーネスト育成財団)	
	高寺 政行 (信州大学)	高橋 泰城 (北海道大学)	
	田名部 元成 (横浜国立大学)	田村 義保 (統計数理研究所)	
	椿 広計 (統計センター)	椿 美智子 (電気通信大学)	
	出口 光一郎 (東北大学)	仲田 隆一 (元・(株)東芝)	
	長谷川 恭子 (立命館大学)	皆川 健多郎 (大阪工業大学)	
	村上 存 (東京大学)	横山 清子 (名古屋市立大学)	
監事	末岡 徹 ((株)キタック)	六川 修一 (東京大学)	

□ 2018年度会誌編集委員会

委員長	横山 清子 (名古屋市立大学)		
副委員長	倉橋 節也 (筑波大学)		
委員	青柳 秀紀 (筑波大学)	穴太 克則 (芝浦工業大学)	
	大塚 敏之 (京都大学)	金子 勝一 (山梨学院大学)	
	小平 和一郎 (アーネスト育成財団)	玉置 久 (神戸大学)	
	椿 美智子 (電気通信大学)	出口 光一郎 (東北大学)	
	藤井 享 ((株)日立製作所)	松岡 猛 (宇都宮大学)	
	水野 毅 (埼玉大学)	三宅 美博 (東京工業大学)	

■横幹技術協議会の主な活動実績 『横幹技術フォーラム』

横幹連合との共催で定期的開催している「横幹技術フォーラム」では、複合的視点を必要とする企業課題への技術情報を提供しております。

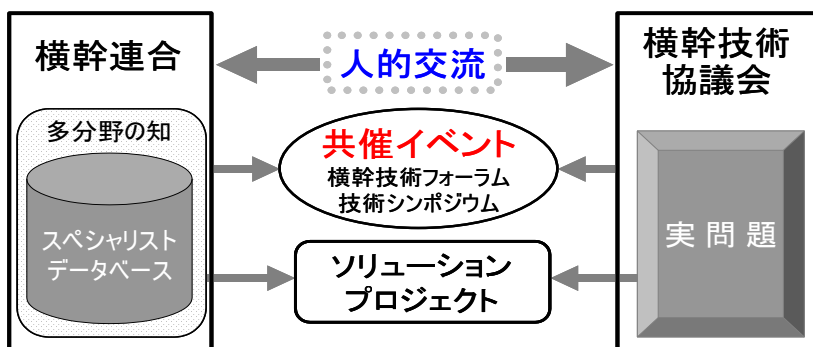
＜過去のフォーラム実績＞

- 第31回 企業における事業継続計画(BCP)の必要性
- 第32回 情報共有による社会インフラの強靱化～システム技術の新たな挑戦課題～
- 第33回 強いぞ！日本
～社会情報学の視点から東日本大震災からの復旧・復興を考える～
- 第34回 東日本大震災からの復興支援現場における支援活動
～次世代に向けた日本の街づくりとして我々は何ができるのか～
- 第35回 エネルギーマネジメントの新しい局面～社会システムの構築段階を迎えて～
- 第36回 アート・デザイン・テクノロジー～近くて遠いその関係～
- 第37回 「未来学」の過去・現在・未来
- 第38回 サービス学の成立 ～サービス科学・サービス工学の発展を受けて～
- 第39回 社会システム論で社会を読み解く
- 第40回 社会デザインのためのエージェントベースシミュレーション
- 第41回 社会的課題解決のためのイノベーション～社会システムとしての街づくり～
- 第42回 数学と産業の協働、データサイエンティストの育成
～イノベーションの創出と促進に向けた先進的取り組み～
- 第43回 経営高度化としての統合リスクマネジメント経営の考察
- 第44回 ロボット活用社会の新潮流
- 第45回 システムデザイン力を展望する
- 第46回 第6次産業への取り組み～複数システムの連携による価値構築～
- 第47回 4次産業革命に向けたサービス科学の役割とビジネス応用に向けた課題
- 第48回 人工知能によるシステム構想力・統合力の強化
～ものづくりプラス企業の実現に向かって～
- 第49回 ビジネスイノベーションが先導する第4次産業革命（IoT/インダストリアル4.0）の実現に向けた産・学・官の役割と課題とは
- 第50回 未来洞察（Foresight）活動の取り組みの現状とその活用
－科学技術融合時代の先取りを目指して－
- 第51回 ヘルスケア・サイエンスの取り組みと現状
－医療に頼らない健康管理のためのヘルスケア－
- 第52回 IoT・ビッグデータ・AI時代の企業間連携とプラットフォーム
－センシングデータ利活用の可能性と課題－

※過去のフォーラムプログラムはHP(<http://www.trasti.jp/about.html#forum>)でご覧いただけます

■企業の課題解決支援（プロジェクト活動）

企業が抱える実問題に対し、他分野の専門家が共同してプロジェクトを組みソリューションを追求するもので、さまざまな要素が絡み合う複雑な課題へアプローチする、新たな産学連携の仕組みとして注目されています。横幹技術協議会では、中核会員企業に初期のフィジビリティスタディ段階のサービスを提供しています。



統合知による産業力強化を推進



横断型基幹科学技術推進協議会

会長 桑原 洋

日立マクセル(株)名誉相談役
元 内閣府総合科学技術協議会協議員

横断型基幹科学技術推進協議会（略称：横幹技術協議会）は、企業を会員として横幹科学技術の推進活動を行っています。

「学」を中心とする横幹連合と、「産」を主体とする横幹技術協議会は互いに緊密に連携しながら、横幹科学技術を推進し、産業活動に生かすためのさまざまな活動を行っています。横幹連合と横幹技術協議会は、車の両輪として、横幹科学技術の学としての深化と社会への活用に取り組んでいます。

（設立：2004年5月）

■参加会員（2018年10月現在）

- 【中核会員】
株式会社 日立製作所
- 【一般会員】
鹿島建設 株式会社
三菱重工業 株式会社

横断型基幹科学技術推進協議会

Transdisciplinary Science and Technology Initiative

TEL&FAX:03-6675-4076 URL: <http://www.trasti.jp/>